

## 2014 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 1 月 31 日作成)

小委員会名	オープンビルディング小委員会	主 査 名：村上 心 就任年月：2014 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (構法計画運営委員会)	委員長名：大原 一興 主 査 名：角田 誠
設 置 期 間	2012 年 4 月 ～ 2016 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>現在、建築分野における世界的な課題として、膨大な既存建物のストックを、環境負荷の少ない手法で長期に渡って効果的に改修・転用する技術体系を確立することが求められている。我が国では、例えば国土交通省の重要課題として位置づけられている。本小委員会では、この課題に対して、国際的に確立されたオープンビルディングの計画手法を応用する研究を展開する。具体的には、下記の研究課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期利用が可能な集合住宅の計画／設計／施工技術（新設、既存の両方を対象）</li> <li>・工業化住宅などマスハウジング期建物、及び、団地のストック活用手法（法制面、技術面の両方を検討）</li> <li>・住宅におけるカスタマイゼーション手法の体系化（新築、改修とも）</li> </ul> <p>上記の研究を通して、建築生産の全体の枠組みの中で、これからの建築計画が担うべき役割を明確にする。</p> <p>同時に CIB W104 (Open Building Implementation) の日本窓口として、オープンビルディングに関する研究・実績・教育の普及活動にも取り組む。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有 (2名)	
	主査 村上 心 (椋山女学園大学) 幹事 石山 央樹 (中部大学)、納村信之 (名古屋商科大学) 委員 南 一誠、江口 亨、小畑 晴治、近角 真一、安達 好和、忍 裕司、門脇 耕三、澤田 誠二、高木 淳一郎、藤本 秀一、宮坂 公啓、森田 芳朗、安枝 英俊	
設置 WG (WG 名：目的)	CIBW104 対応 WG(主査:村上心):CIB の W104 は、オープンビルディングに関する国際会議を毎年開催しており、本小委員会委員を含む日本人研究者が参加してきた。本 WG では、国際会議開催に関連する協力などの対応を行う。	
2014 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.ajj.or.jp/keikakusub/s13/">http://news-sv.ajj.or.jp/keikakusub/s13/</a>

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	<p><b>計 4 回</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 回 (6/24)：青木茂先生と行くヨーロッパ研修旅行の報告</li> <li>・第 2 回 (9/30)：UIA ダーバン大会とジョイントで開催された CIBW104 国際コンファレンスの報告</li> <li>・第 3 回(12/10)：国際シンポジウム「サステナブル社会のまちづくり」(12/1~3)の報告</li> <li>・第 4 回(2/24 (予定))：縮退していく英国・アメリカ諸都市における公共施設マネジメント先進事例の報告</li> </ul>
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画</p>	
<p>大会研究集会</p>	
<p>対外的意見表明・パ ブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)</p>	<p>1. UIA ダーバン大会とジョイントで開催された CIBW104 国際コンファレンスに主査、幹事二人も含め3人で参加。論文投稿と発表、そして主査はパネルディスカッションのモデレーターをつとめた。(8/3~7)</p> <p>2. 上記コンファレンスで発表したCosta Marianne氏(千葉大小林研究室博士2年)にゲストスピーカーとして委員会に参加していただき「SI SYSTEM AS USER-ORIENTED HOUSING APPROACH FOR EMERGING MARKETS」というテーマで、ジャカルタ・ソール・サンパウロの3都市の居住空間のアダプタビリティに関する比較を行なった研究の発表ならびに意見交換を行なった。(9/30)</p> <p>3. 委員会は予定通り4回の開催である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回(6/24): 青木茂先生と行くヨーロッパ研修旅行の報告</li> <li>・第2回(9/30): UIA ダーバン大会とジョイントで開催された CIBW104 国際コンファレンスの報告</li> <li>・第3回(12/10): 国際シンポジウム「サステナブル社会のまちづくり」(12/1~3)の報告</li> <li>・第4回(2/24(予定)): 縮退していく英国・アメリカ諸都市における公共施設マネジメント先進事例の報告</li> </ul>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>1. 東京、名古屋、関西圏に委員が分散しているため、委員会開催回数が不足しがちである。</p> <p>2. 国際会議 CIB W104 への参加人数増加、国際学会誌 OHI への投稿論文数増加。</p>

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。